

# 令和5年度 第3回宇和島市地域公共交通活性化協議会

## 議 事 要 旨

日時 令和5年10月25日（水） 14時00分～15時00分

場所 宇和島市役所 602会議室

出席 （委員） 玉田委員、藤井委員、田崎委員、本田委員、田中委員、松本委員、  
二宮委員、一色委員、菊池委員、松岡委員（代理）、小倉委員（代理）、  
弓削委員、窪委員、二宮委員（代理）、山口委員（順不同、敬称略）  
（ホガバーバ）愛媛県南予地方局地域産業振興部地域政策課 須山課長（代理）  
（事務局）宇和島市企画課：木原、末廣、牧野、古田  
（委託業者）株式会社 長大

### 1 開会

### 2 開会あいさつ

### 3 （1）協議事項

議案第1号 宇和島市地域公共交通計画策定について

- ・事務局より宇和島市地域公共交通計画策定についての資料1～5、参考資料を説明。
- ・質疑応答

（委員） 1点目は、資料2の8ページの主な施設分布と10ページの主な観光資源について、図中のグレーのエリアの説明がない。資料3の1ページを見てデマンドタクシー運行エリアと分かったが、資料2にも凡例を入れる必要がある。

2点目は、資料3の13ページの三浦半島線のバス路線網は緑地の上に黄緑の路線が描いてあり見づらい。計画に使用する際には配色にも気を付けていただきたい。

3点目は、資料2の6ページの通勤・通学の状況について、宇和島市から鬼北町や近隣の市町への移動の特長がわかるような、例えば、鉄道利用者にターゲットに絞った対策や取組ができるのではないか。JRまたは事務局で、わかっていることがあれば教えていただきたい。

（委託業者） 1点目について、資料2の図にもデマンドタクシー運行エリアの凡例を追加する。2点目について、見にくい路線図の色は修正する。  
3点目について、国勢調査のデータは通学と通勤が分かれているの

で、その区分はできるが、鉄道の利用状況はパーソントリップ等の別途データがないと分析できない。

鉄道では定期を利用した通勤通学が多くを占めていて、それ以外の一般利用は1割から2割程度となる。今後は利用促進等により、定期的な利用者を確保していく必要があると考えている。

(委員) 市と事業者で情報交換しながら、多くの人に乘ってもらえるような計画にしてもらいたい。

(委員) 参考資料にも書かれているが、法改正を踏まえ多様な移動手段を検討していくことが必要と考えられる。

アンケートについて、一般市民は公共交通以外の移動手段のイメージがないと思われる。地域における輸送資源として、市の事業支援を行っている生き生き教室、商業施設や福祉施設への送迎バスを選択肢とするなどアンケートを工夫しないと、有意なデータが得られないのではないかと。現状のニーズの把握ができるのであれば、そういう調査をした方がよいのではないかと。

(事務局) 資料5のアンケート調査の内容を検討したい。

・質疑応答後、拍手による採決を行い、賛成多数により承認。

## (2) 報告事項

・コミュニティバスの土日実証運行及びデマンド便のアンケート結果について

・質疑応答

(委員) 土日は市役所と病院が休みで、買い物だけでは利用が少ない状況を踏まえると、土日運行は難しいという結果であった。

・地域モビリティの実証運行について

・質疑応答

(委員) 7月からの3か月の利用実績から、どのような利用者層が多いのか、どの月や曜日で多いのかなど、傾向があれば教えていただきたい。車1台で運行されていると思うが、利用が集中して乗れない場合や利用を断ったケースなどはなかったのか。

(事務局) 目的施設は島の主要施設に集中しており、高齢者が多い印象である。利用が多い曜日は集計していないためこの場で回答できない。各月のデータを見ると、本浦地区ではフェリー乗り場への利用が最も多く263人のうち76人(28.9%)、次いで戸島診療所への利用は34人(12.9%)、自宅への移動が17人(6.4%)であった。

その他、実証運行前に想定していなかった目的施設としては、小学校や漁協への利用があった。

運転手以外で最大3人が乗れる車で3人同時の利用はあったが、定員オーバーで乗れなかったという報告はない。

(委員) フェリーの利用者が多い時は、ピストン運行になっていたと思われる。

(委員) 当初想定していた利用者(高齢者)がフェリー乗り場、通院、買い物への移動への利用に使うことが多かったということか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 地区住民のうち、実質何人が利用されたのか。

当初想定していた利用者を大きく上回った結果であるが、将来に向けて、今後も車1台で運行するのか。あと地域活性化に向けた地区の取組などあれば、紹介してほしい。

(事務局) 3か月で乗車された延べ人数263人は把握しているが、そのうち固定した方の目的は、通院やフェリー乗り場までが多かったと思う。高齢者が多いことは分かっているが、実人数までは分析できていない。戸島地区の住民登録は9月30日現在で225名、うち75歳以上の高齢者は70名弱で高齢化率は高く、もともと島内には公共交通はなく、どうしても移動手段が限定されている状況であった。自宅からフェリー乗り場までの距離をみると、大多数の方が2km程度、一番遠い4名程度の集落で約4kmであり、長距離ではないが、高齢者の移動が難しい状況を受け、今回、地元自治会から市役所に相談があり、今回の実証運行を行った。

(委員) この件については、なかなか行政だけでは立ちいかず、事業者の方も困難というなか、市で進めている協働のまちづくりとして、島内という限定された地域ではあるが、移動サービスの1つの形ではないかと思うので、市としても前向きに検討していきたい。

・その他

質問・意見なし